

発刊のことば



昭和59年度自治会長
30年誌編集委員長

都丸 勝

この度、荒牧町は町制施行30周年に当り、これを契機に記念誌を発行する事になり、歴代自治会長さん始め、各種団体長さん関係者皆様のご協力で資料写真の収集や編集ができ、ここに立派な記念誌を刊行できます事を衷心より厚く御礼申し上げます。思えば歴史を振り返ると、昭和29年9月当時南橋地区13村字は、町村合併促進法によって前橋市へ合併する事になり、村名が町名と改名されて、懐しい村名を惜しまれたと記録されています。当時町内の世帯数は126戸で960人の人口でした。田園の多い農村地帯でしたが、以来都市化の波とドーナツ化現象で町内は急速に変遷致しました。特に46年3月に都市計画法による市街化区域と、市街化調整区域の線引きが行われ、荒牧町は区画整理事業前提に市街化区域に加入した次第です。以来年々100戸位いの世帯が増えて参りました。極めて大事業であった公民館建設及び荒牧団地誕生。群馬大学用地提供等は歴代の年表に記載しましたので割愛します。こうした町内の流れ動向を把握し、合わせて社会の背景など特に戦後の混乱以後、激動期、成長期、安定期、と続いた、時代のニュースを一部組み入れて見る事が大変意義があると思ひ、2年前から話題となり町内にみなぎったのです。同時に北部第3区画整理事業で地形が大きく変貌する事も相まって、この様な企画で記念誌を作成して後世に伝承しようと地区代表及び団体長会議で立案され、定期総会で承認をされました。その後編集委員会が発足し着々と発刊の準備が進んできました。編集委員長には時の自治会長が担当する事で、私に向けられたのですが委員長とは名ばかりで大変皆様にご迷惑をかけましたが、幸いにして編集主任さん始め、編集委員さん各位の献身的なお骨折りをおたたく大変力強く感じ、そのご労苦に対し心から感謝と敬意を申し上げます。現在町内は1,252戸の世帯で4,485人です。どうかこの記念誌が皆様の町内連帯向上の一ページになれば幸いに在じます。そして我が荒牧町が限りない永遠のご発展を熱望して発刊のことばと致します。

町制30年誌発刊を祝す



前橋市議会議員
関口三代八

荒牧町は昭和29年9月1日町村合併促進法により前橋市に合併いたしました当時の世帯数は126戸人口960人程だと思います。

これが現在1,252戸、人口4,485人の南橋地区でも二番目に大きな町になりました。

その原因は群大の用地提供により建設又荒牧小の建設等であったと思います。又歴代自治会長及び役員の皆様の献身的努力によるものだと思います。その上に立って今日の荒牧町が出来上がり21世紀に向かって前進しておるのだと思います。

現在区画整理事業が130億をかけて実施されており皆様の協力により15年の歳月をかけて完成に向けて進んでおります。環境整備が進み整然とした町の態勢は出来ると思いますがその中にいかに人間として大きな花を咲かせるかが今後の自治会運営ではないかと思えます。

最近燈々無盡と云う言葉を使います。燈々とは灯しびを次から次へと点じ続けること無盡とは尽ることが無いということであります。

いくら明か明かと燃えていても1本のろうそくはやがて燃え尽きてしまいました。その1本の灯でもそれが次のろうそくへそれが又次のろうそくへ次々に灯をともし続けるならば永久に無盡であると云うことだと思います。人間は生まれ育ち働き友をもち子を生み育てそしてやがて老いついに死にます。これだけは避けがたいことです。ただこうしていつまでも生命の灯は広がり光り続けます。親から友から先輩から灯を受け続いだ私達はだれかの心に又灯を点じたい、若い人は老人から、老人は若い人に燈々無盡の願いをこめて生きる町を造りたい。これが連帯の社会だと思います。どうか町制30年を契機として21世紀に向けて荒牧町のより一層の発展と町内皆様のご健勝を心から祈念して御祝の言葉といたします。

30周年を祝う



前橋市議会議員 土屋 史郎

荒牧町30周年を心からお祝い申し上げます。

私が前橋に移り住んだのは、昭和29年9月1日に、旧南橋村が前橋市に合併して間もない、昭和32年のことです。

当時、荒牧に友人が住んでおり、よく訪問したのですが、その頃と現在を比べてみると、世帯数や人口の増加をはじめ、生活環境の改善など、街の移り変りはまさに隔世の感があります。この大きな発展は、住民の皆さんの、住みよい街づくりを目ざした、努力の結果であることは、いうまでもありません。

そして、その中で自治会の果たした役割はきわめて大きなものがあると考えます。

とりわけ大切なことは、戦後の復興期から高度成長を経て現在までの期間は、生活様式の変化や核家族化の進行に伴う、住民意識の多様化など、さまざまなむずかしい問題をかかえる中で、住民の皆さんが力を合わせて現在の荒牧町をつくりあげてきた、そのエネルギーを正しく評価し、今後を引きついで行くことであると考えます。

これからの地域社会の動向は、高齢化社会への方向など、複雑な様相を呈しながら進むと考えられますが、私たち住民が、地域にかかわる共通の問題をとりあげ、全戸の協力によって解決し、生活を充実発展させることを通じて、地域のコミュニティーをつよめ、住民運動の網の目を濃くしていくことが、重要であろうと思います。

荒牧町と住民の皆さんの益々の発展を祈念いたしまして、ごあいさついたします。

荒牧町



昭和58年11月 撮影 群農放送
提供 石原巳代次

全 景

